

くすのき

～くらしの中の「和」と「洋」について
調べよう～

「くらしの中の和と洋」





くすのき学級 国語科学習指導案

↑
ワークシート

第5・6学年 児童数7名 2/8

1 単元名 くらしの中の「和」と「洋」について調べよう

教材名 「くらしの中の和と洋」(東京書籍 4年下)

2 単元目標

◎中心となる語や文を見付け、和と洋の違いを読み取る。

- ・比較や分類の仕方を理解する。[知識及び技能]
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見付ける。[思考力、判断力、表現力等]
- ・写真や本文から、気付いたことを伝え合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]

※小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「国語編」第3学年及び第4学年の内容に準ずる。

3 単元評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較や分類の仕方を理解し、使っている。	・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。	・写真や本文から、気付いたことを伝え合おうとする。

4 単元について

(1)これまでの学習経験

児童の実態に合わせた個別学習や通常の学級での検定教科書を教材にした学習など、個に応じた学びを積み重ねてきた。

昨年度のグループ学習は、「牛乳パックで、こまを作ろう」(三省堂2年)で、実際にこまを作る体験活動から本文を読み取り、自分なりの言葉に書き換えて低学年向けのこま作りの説明書を書く活動を行った。本文には、「作り方」といった事柄ごとの表現、「まず」「つぎに」、といった順序を表す接続語、「図のように」といった図と文章を対応させて読むことを促す表現、「○センチメートル」といった具体的な数値など、分かりやすく説明するための工夫がいくつも示されている。これらの説明の工夫に気付かせることで、低学年に向けたこま作りの説明書作りという学習につなげていった。

(2)本教材について

本教材は、くらしにおける日本の「和」と欧米の「洋」を比べながらそれぞれのよさを考えることを題材にした説明文である。和室と洋室の違い、床の仕上げ方の違い、過ごし方や使い方の違いなど、項目ごとに和室と洋室を対比させており、それぞれの特徴を捉えやすい構成になっている。項目ごとの差異について写真を見て考えたり、文を読んだりして内容の大体や筆者の考えを捉えさせていく。

5 研究主題に迫るための手立て（ユニバーサルデザインを意識した指導の工夫）

（1）授業の流れを示す掲示物（視覚化）

単元計画や、1単位時間の授業の流れを提示することにより、児童が見通しをもって学習に取り組むことができると考えた。児童自身が、学習活動を理解し、主体的に学習できるようにした。

（2）言語活動（焦点化）

本単元では、学習のまとめとして「衣」「食」「住」についての「和」と「洋」それぞれのよさについて調べてまとめるという言語活動を設定した。「住」の「和室」と「洋室」の違いやよさを読み取るために身に付けてきた力を活用し、本から自分が選んだテーマについて、ワークシートに対比させながらまとめるようにする。

（3）ワークシートにおける付箋の活用（焦点化）

ワークシートで「和室」と「洋室」のそれぞれのよさを付箋に短い言葉で書く。自分で付箋を動かしながら考えることで、対比の関係を捉えやすくなる。また、書くことに苦手意識がある児童には、キーワードとなる言葉が書かれたシールを選択して付箋に貼って活用できるようにした。

（4）写真の活用（視覚化）

教科書の挿絵だけではなく、教師が用意した「和室」と「洋室」の写真も提示し、叙述と写真から分かる様子を一致させながら授業を進めていく。写真から児童が気付いたことをたくさん取り入れ、児童の興味・関心を高めつつ、深い読みの手掛かりとなるようにする。

（5）うさ松の秘伝書の活用（焦点化）

本単元の読み取りに関する用語の確認等に「うさ松の秘伝書」を積極的に活用していく。実態に合わせた内容に作り替えたものを掲示することで、学習の手掛かりとなるようにする。

6 学び方（「うさ松の秘伝書」の項目番号）

言語形式 様々な説明的な文章に活用できる読み方	言語内容 該当教材における特有の読み方
1. 対比を理解する。（⑧）	1. 和 ⇌ 洋 和室 ⇌ 洋室 和室での過ごし方 ⇌ 洋室での過ごし方
2. カード化する。（④）	2. キーワード（大切な文や言葉・語句）を付箋に書き出し、比べたり動かしたりすることで、それぞれの関係を見付けやすくする。

7 学習指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	○指導内容	◇支援 ★評価
和室と洋室の違いを見付けよう	1	日常生活にある「和」と「洋」について比べてみよう。		
		○様々な衣食住に関する写真を、「和」と「洋」に分類する。 ○題名や本文を読んで、「和」「洋」について考える。 (形式段落①②)	○題名や本文から、学習課題を捉えること。 ○「和」「洋」について知っていることを対比させること。	◇学習計画を拡大して提示する。 ◇対比（秘伝書⑧） ★比較や分類の仕方を理解し使っている。
	2	和室と洋室の違いを見付けよう。		
	本時 (習得)	○和室と洋室の違いについて読む。 (形式段落③)	○和室と洋室の床の仕上げ方と置かれている家具の違いについて理解すること。 習得 比べて違いについて読み取ること。	◇カード化（秘伝書⑫） ◇「和室」「洋室」にサイドラインを引き、違いを見付けやすいようにする。 ★写真と本文を結び付けて、内容の大体を捉えている。
3 (活用①)		和室と洋室の過ごし方の違いを見付けよう。		
		○和室と洋室の過ごし方の違いを知る。 (形式段落④⑤)	○和室と洋室の過ごし方の違いについて理解すること。 活用① 習得したことを使って活用を図ること。	◇本文を拡大して提示し、和室と洋室の違いについて分かるようする。
4 (活用②)		和室と洋室の過ごし方について読み取ろう。		
		○和室と洋室での過ごし方とよさについて読む。 (形式段落⑥～⑩)	○和室の畳のよさ、洋室で使う椅子のよさについて理解すること。 活用② 習得したことを使って活用を図ること。	◇本文を拡大して提示し、和室と洋室のよさについて分かるようする。 ★目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。

	5	和室と洋室の違いをまとめよう。		
		○和室と洋室の違いについてまとめ、理解する。 (形式段落⑪～⑯)	○和室や洋室での過ごし方や使い方には、それぞれよさがあることを理解すること。	◇前時までのワークシートを活用し、振り返りながらまとめられるようにする。 ★内容の大体をまとめることができる。
二 衣食住の「和」と「洋」について調べよう	6 (応用①)	衣食住の「和」と「洋」について調べよう。		
		○衣食住の「和」と「洋」について調べる。	○既習事項を生かし、衣食住の「和」と「洋」について対比しながら資料を読むこと。 応用① 習得したことを使って応用を図ること。	◇対比 (秘伝書⑧)
	7 (応用②)	衣食住の「和」と「洋」についてまとめよう。		
		○衣食住の「和」と「洋」について調べたことをまとめめる。	○既習事項を生かし、衣食住の「和」と「洋」についてまとめること。 応用② 習得したことを使って応用を図ること。	◇書くことが難しい児童には、個に応じたワークシートやタブレット端末を使うようする。 ★これまでに学習したことを生かして、紹介文を書こうとしている。
	8	調べたことを発表しよう。		
		○調べたことを発表する。	○調べたことが相手に伝わるように、声量や読む速さを考えて話すこと。	◇発表しやすいように机の向きなどの環境を整え、落ち着いて活動できるようにする。

8 本時の指導（2／8時） くすのき学級5・6年

(1) 目標 写真と文を結び付けて和室と洋室の違いについて読み取る。

(2) 展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまずき	◇支援 (全)…全体 (個)…個別 ★評価
1. 前時の学習の内容を振り返り、本時のめあてを確認する。	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつこと。	◇「和」「洋」という言葉の意味を確認する。(全) ◇前時で学習した形式段落②を再度読み、課題を捉えられるようにする。(全)
和室と洋室の違いを見付けよう。		
2. 和室と洋室の写真を分類し、特徴について考えたことをワークシートに書く。 じっくりタイム	○和室と洋室の特徴について考え、分類すること。	◇写真を分類し、特徴について考えられるようにする。(全) ◇付箋にキーワードや短い文で書き、整理しながらワークシートに書くようにする。(全)
3. 和室と洋室の違いについて読み、さらに分かったことをワークシートに書く。 (形式段落③) じっくりタイム	○和室と洋室について書かれていることを文中から見付けること。 ■意味の分からぬ語句がある。 習得 比べて違いについて読み取ること。	◇意味が分からぬ語句があった場合には、辞書で調べるように促したり一緒に確認したりする。 (個) ◇「和室」「洋室」にサイドラインを引き、違いを見付けやすいようにする。(全) ★写真と本文を結び付けて、内容の大体を捉えている。
4. 全体で交流する。 なるほどタイム	○ワークシートをもとに、全体で発表・交流すること。	◇和室と洋室の違いについて、比べて分かったことを価値付ける。 (全)
5. 自分の考え方を見直し、加筆修正をする。 つけたしタイム	○自分の考え方を見直し、加筆修正すること。	
6. 本時の振り返りをして、次の学習を確認する。	○本時の学習を振り返り、和室と洋室の違いについてまとめる。	◇ワークシートに書くことが難しい場合は、重要な言葉や文にサイドラインを引くようにする。(個)